

- ① … 第1回定時評議員会／第2回通常理事会を開催
昌平高校、惜しくもベスト4～令和4年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技 男子
- ② … 新専務理事に柏悦郎氏が就任～2022年第2回理事会を終えて
- ③ … 座談会 WEリーグ、何が課題なのか？SFAとして、何ができるのか？ Vol.1
- ④ … 成年男子、少年女子、本大会出場決定！～第77回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技
- ⑤ … 技術委員会、独自のWEBサイト&SNSを開始！
- ⑥ … 大会記録●県内大会 1種社会人・2種高体連・3種中体連・3種クラブ・4種
- ⑦ … 大会記録●県内大会 女子 ●県外大会 1種・社会人・大学・2種高体連・クラブ
- ⑧ … 大会記録●県外大会 3種中体連・クラブ・シニア・フットサル・ビーチサッカー 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

第1回定時評議員会／第2回通常理事会を開催

6月12日、(公財)埼玉県サッカー協会第1回定時評議員会及び第2回通常理事会が開催されました。評議員会では、新理事が選出されました。続く理事会の中で、鈴木茂会長の再任(3期目)が承認されました。また今回、専務理事だった坂庭泉氏の退任を受け、新専務理事として柏悦郎氏が選ばれました(2ページにインタビュー)。

引き続き、協会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

2022・2023年度 公益財団法人埼玉県サッカー協会 理事 / 評議員

会 長	鈴木 茂			
副会長	岡田 泉	渡辺 典子	上 條 岳	
専務理事	柏 悦 郎			
理 事	池田一義	貴田浩朗	田中龍太郎	松澤明美
	鈴木 豊	高橋哲男	関 純	石崎聡之
	植松孝博	二見 元	谷地田昌史	大山 武士
	薊 理 絵	瀬尾工ミ子	樫村 憲二	宮崎剛雄
	比田井 裕	関 克己	佐藤秀宣	飯野 明
監 事	栗原靖治	船崎久壽		
評 議 員	遠藤圭介	大木正幸	大倉 浩	岡本武行
	小林利成	新藤一晴	難波綾子	野間 薫
	畑中隆一			



2022・2023年度 公益財団法人埼玉県サッカー協会 理事・評議員

昌平高校、惜しくもベスト4 ～令和4年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技 男子

7月24日から徳島県で開催された「令和4年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技 男子」において、埼玉県代表の昌平高校が3位に輝きました。決勝まではあと一歩。この悔しさを踏まえて、高校選手権県予選に挑んでもらいたいものです。

また「高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ2022関東1部」においては、第9節を終えて首位。プレミアリーグ昇格へも期待がかかっています。

※結果は記録ページでご確認ください。



新専務理事に柏悦郎氏が就任 ～2022年第2回理事会を終えて

柏氏といえば、前技術委員長というよりも、県中体連サッカー専門部委員長、さらには日本中学校体育連盟サッカー競技部長の経歴が長く、イメージとして定着しているかもしれません。また、日本代表 GK 川島永嗣選手 (RC ストラスブール/フランス) を与野西中時代に指導していたことでもご存じの方は多いでしょう。

教職を退職後、SFA のコースダイレクターに就任。種別を超えて県内の指導現場、大会を見て歩いてこられました。2020年途中からは技術委員長に就任するも、この春、田中龍太郎氏にバトンタッチをしたばかり。そんな中で、専務理事という“舵取り”を任せられて、その目指すところをお聞きしました。(聞き手/広報委員 荒川裕治)

まずは SFA ミッションの見直し

—就任して3か月近くになりました。現状はどのような業務をされているのでしょうか。

柏 まずは事務局の皆さんとのコミュニケーション。もともと知った顔ではありませんが、改めて話をするところから始めています。また、長く理事を務めていましたものの、予想以上に知らないこと、わからないことが多く、学んでいるという状況です。

とはいえ、早急に取り組もうとしていることが3つあります。

一つは、これからミッション委員会で検討しますが、2007年に作成した「SFA ミッション」の見直しです。当時は画期的なものでした。というのは、協会としての方向性がありませんでしたから。ですが、もう15年前のものです。取り巻く環境も変化しましたので現状を踏まえながら、ここから先を見据えた内容に整えていきたいと考えています。

これに関しては、私も含めた技術委員会内で制作を進めている「SFA フィロソフィー」(仮称)との連携もしていかなければなりません。先日、JFA の技術委員会から「Japan's Way」という方針が打ち出されました。その中で、47FA に求められているのが「独自性」です。私たちもフィロソフィーを作成する中で「埼玉らしさ」を持った選手育成、日本だけでなく世界に向けて選手を輩出していけるような指針となるように取り組んでいるところです。今回の関東ブロック大会、少年男子は残念でしたが、少年女子は本大会出場を決めてくれました。彼ら、彼女たちには、さらに上を目指してもらいたいです。

また、フィロソフィーの中でも触れていますが、キッズへの取り組みを今以上に進め、女子サッカーの発展にも注力していきたいと考えています。こういうことも「SFA ミッション」で触れていかなければなりません。

—特に女子サッカーといえば、WEリーグの3クラブへのサポート体制も整える必要もあるでしょう。女子フットサルもあります。他にも、障がい者サッカーも県内では盛んです。これから発信するフィロソフィーや「SFA ミッション」などを理解していただくためにも、これまで以上に、積極的にコミュニケーションの輪を広げていく必要がありますね。

持続可能な組織を目指して

柏 そうなんです。

二つ目は、協会関係者の待遇の見直しです。実質的には皆さんの善意、ボランティア精神で支えられているのが現状です。そういう面をできるだけ適切な形に改善していきたいと思っています。SDGs ではありませんが、SFA としても今後も持続可能な体制、組織を整えていくことも重要なことだと考えています。

そのためにも、今は皆さんにお願いしている「仕事」も把握しているところ。こちらの目に見えないところでも、ご尽力いただいている方々がたくさんいらっしゃいます。そういう皆さんに、配慮できるようにしたいものです。でなければ、将来的にどの事業も継続することができなくなるかもしれないのですから。



柏悦郎氏

—そのためには規約などの見直しも必要でしょうし、新たな取り組みも必要になるということですね。

サッカーを通じた地域貢献を

柏 そうです。いわゆる改善なのですが、ただ、そのためにはいろいろと知らなければならぬことが多く、時間がかかっているという状況です。

そして三つ目ですが、地域を巻き込んだ事業を展開していきたいと思っています。どんなことかと言えば、サッカーを通じた地域貢献です。具体的には「SFA フットボールデー」(仮称)を開催したいと考えています。

例えばですが、埼玉スタジアムのメインピッチでは高校、中学の試合があり、第2グラウンドで4種、第3グラウンドでは女子の試合。第4グラウンドではキッズのフェスティバル、フットサルコートではトップレベルの試合や初心者向けのスクール……。埼玉スタジアムで丸一日サッカーを楽しめる日を作りたいのです。その場の試合の分析を行って指導者講習会を行ったり、審判講習会もあっていい。さらにサッカー以外にもキッチンカーに来てもらったり、埼玉県産の野菜や加工品を販売するなどして「お祭り」のようなことをしたいのです。

その第一歩として、SFA フットボールセンターでフェスティバルなどを開催した際、加須市との交流も始めたいものです。

—特に、これまでフットボールセンターのある加須市とは地域的な連携がありませんでした。これを契機にしてほしいものです。

柏 加須なので、うどんですね。

—コロナ以前ですが、毎年、加須では地元のうどん屋さんが集まって、イベントをしていました(「加須市うどんフェスティバル」。例年10月開催)。そういうつながりも重要ですね。

柏 継続的にイベントを行うことで、市民の皆さんにも認知していただくことが大事ですね。フットボールセンターを賑わいの場にしていきたいと考えていますし、そういうこともサッカーの普及につながると思っています。

これまで教員しか経験していませんので微力ではありますが、皆さんと一緒に前へ進んでまいりたいと思っています。ご協力をお願いいたします。

WEリーグ、何が課題なのか？ SFAとして、何ができるのか？ Vol.1

【参加者】

薊 理絵 (株)エルフェンススポーツクラブ/SFA理事
池田浩美 尚美学園大学女子サッカー一部監督
渡辺典子 SFA副会長/同女子委員長
柏 悦郎 SFA専務理事/同ユースダイレクター

昨年開幕した「WE リーグ」(日本女子プロサッカーリーグ)に、埼玉県から3クラブ参加しました。前年度の女王「三菱重工浦和レズレディース」、このリーグ開幕に合わせて新設された「大宮アルディージャ VENTUS」、そして小学生チームから進化してきた「ちふれ AS エルフェン埼玉」。三者三様の成り立ちをしながら、どのクラブも日本の女子サッカー発展に向けて、邁進しているところです。しかしこの一年、思い描いたようにはならず WE リーグの岡島喜久子チェアもメディアのインタビューで「点数をつけると70点くらいです」と振り返るような状況です。これまでもSFAに対して、WEリーグ側から様々な形で協力要請がありました。しかし、何をどう協力できるのかが、明確にならないまま一年が過ぎた感があります。

そこで、まずは新しくSFA理事に就任した薊(あざみ)理絵さん(ちふれASエルフェン埼玉・クラブアンバサダー)に2年目に向けたWEリーグの課題を伺い、SFAとして何ができるのかを渡辺典子・女子委員長、元なでしこジャパンキャプテンでもある池田浩美さん(尚美学園大学女子サッカー一部監督)と整理していきたいと思います(司会・構成/広報 荒川裕治)

チラシを配っているのですが……

—お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。さて、各方面から「WEリーグを盛り上げてほしい」との声が高まっております。高まっていますが、何が大きな課題なのかを整理する必要があると思います、薊さんがSFAの理事に就任されたことを踏まえて、「とにもかくにも、まずは現状をお聞きしよう」と思った次第です。ご挨拶がてら、まずは皆さん一言いただけますか。柏さんからお願いします。

柏 専務理事の柏です。ユースダイレクターも兼ねております。先日は女子U-20なでしこジャパンが準優勝してくれました。また、県としても国体関東ブロック大会で少年女子が本大会出場を決めてくれました。県内の女子サッカーを盛り上げていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

渡辺 副会長で女子委員長の渡辺です。いろいろな意味で女子サッカーを活性化させていきたいと考えております。今日はよろしく申し上げます。

—ニュートラルな立場で、元なでしこジャパンのキャプテンを務められた、尚美学園大学の池田さんにもお声がけさせていただきました。よろしく申し上げます。

池田 ご期待に添えるかどうか。よろしく申し上げます。

—そして新しくSFA理事に就任した、ちふれASエルフェン埼玉より薊さんです。

薊 薊です。ずっと選手をされていて、2年前に引退しました。正直、まだわからないことばかりです。よろしく申し上げます。

—早速ですが、薊さん、WEリーグの問題点を教えていただけますか。

薊 改めてよろしく申し上げます。

昨年、WEリーグが開幕しました。しかし、リーグ全体的に集客が伸び悩んでいます。これが一番の課題です。エルフェンの集客実績だけを見ると、女性と子どもの比率が半分を上回っていました。集客数はまだまだたくさん課題はありますが、WEリーグの理念に沿った集客でクラブの方向性は変えずに継続的にアプローチしていきたいです。



薊 理絵氏

実は、ホームタウン4市(狭山市、飯能市、日高市、熊谷市)には、全小学校、中学校に試合の案内チラシを配布させていただいていま

す。飯能にいたっては、保育園も配布しています。しかし、チラシだけだとなかなか目に映らないのかもしれない。「お父さん、お母さんに見せてくれているのかな?」と思ったりします。

そこで、「学校にお邪魔して、授業参加をしよう」という企画を立ち上げました。今月、9月の後半から実施できるよう募集をかけています。

実際問題、効果があるかはやってみないとわかりません。でも、一人でも多くの子どもたちに選手と触れあってもらい、そこでチラシを受け取ってもらいたいですね。もちろん、試合に来てほしいと願っています。チラシにはQRコードを入れており、そこからチケットを買えるようにもしています。昨年を見ると、前半戦はよかったのですが、後半はなかなか……。

柏 うーん、カバンの中には入れても、お母さんが引っ張り出さないと出て来ないかもしれませんね(苦笑)。学校で配るプリント類はほしいそうですね。

渡辺 学校現場ではそんな感じですね。

池田 ウチの子を見てもそうですね。サッカースクールのチラシは学校の外でもらって、そのまま手に持ったまま帰って来たので、受け取れましたけど。それで、今、そのスクールに通っています。

柏 申し訳ないですが、そんなものです。

「そもそもWEリーグって何?」

—学校には宅配便か何かで送っているんですね。可能ならば直接持っていかれるといいですね。その方が「熱意」がこもりますから。

薊 そうなんです……。今年が行田市、深谷市にもお願いして集客に務める予定です。メディアへの露出も課題です。

あと、お話をさせていただく先々で「そもそもWEリーグって何?」とか、「なでしこリーグはプロじゃなかったの?」とか……。皆さんの中では、グチャグチャなんです(苦笑)。こちらはWEリーグの周知をしたいのですが、それ以前の問題なんです。

—あー、そもそも女子サッカーの状況が知られていないということですね。では、「なでしこジャパン」に関しては、当事者でもある池田さんにお聞きしましょう。どうも「なでしこジャパン」のインパクトが強すぎるんですよ。どうしますか?

(※注釈……なでしこジャパン=日本女子代表、WEリーグ=日本女子プロサッカーリーグ。なでしこリーグは、WEリーグ発足以前は日本の女子サッカーのトップリーグでしたが、現在は「アマチュア」のトップリーグです)

池田 まあ、「なでしこジャパン」のほうが先でしたからね……。それを受けての「なでしこリーグ」でしたから。

柏 ある意味、自然な流れですよ。

渡辺 私もそうなんだろうなと思いますよ。「なでしこ」のほうがインパクトあるし、わかりやすいですね。WEリーグとの違いが、なかなか理解してもらえませんよね。

ただ、プロリーグということで、職業の一つになったのは大きいかと思います。学校現場からすると、進路学習でも触れることができるようになりました。少しずつですが浸透していくと思います。

—なかなか厳しいですね。少しずつ、理解してもらえないのでしょうか。ちなみに、そもそも小さい頃に、女子サッカーの試合、見ていましたか？

薊 振り返ると私自身、試合を見に行くことはありませんでした。親がサッカーに興味を持っていれば違ったかもしれませんが、持っていないと、なかなか足を運ぶ機会がありませんよね。それでもクラブやチームと一緒に試合に行くことがあれば、「もう一回行きたい」となって、習慣化するかもしれませんが。

ただ、WEリーグは土日試合ですので、自分が所属しているチームの活動と被るでしょうから、観戦するのは難しいですね。でも例えば、埼玉ダービーとかには、スケジュールを考えてもらうとかはできないのでしょうか。

渡辺 スケジュールの変更は難しいですね。年間で決めていますから。また皆さん、忙しい中で調整していますので……。

柏 今、埼玉県と県知事からの要望として、埼玉ダービーの6試合を、勝ち負けを含めた様々な合計したものでチャンピオンを決めようという企画が進んでいます。集客などの項目があって、その中で盛り上げてほしいと。こういうことをきっかけにして、メディアが取り上げてくれるといいのですが。

試合に都合のいい時間帯とは？

—実は、その要望が今回の座談会につながったわけです。とはいえ、SFAとしてはWEリーグの3クラブに対してのみの協力ではなく、県内の女子サッカーの発展を踏まえたものでなければいけないと考えます。そのためには、子どもたちからプロまで、女子サッカーそのものがつながっていないと、いけないわけですね。

渡辺 昨年、「JFA 女性リーダーシッププログラム」に参加しました。その中にはWEリーグを立ち上げたメンバーも多く入っていましたので、いろいろと話を聞いたのですが、課題が多くて驚きました。お金もない、人もいない、手段もない……。

ただ、そんな厳しい中でも女子は女子なりに、少しずつできることの幅が広がってきていると思

っています。今の選手たちがお母さんになって、子どもと一緒に……というサイクルは本当、これからだと思うのです。ですから、あわてずにいろいろな声があってもそういう声に左右されずに、やれることをやっていくということが大事だと思います。

埼玉からは、全11チーム中3チームも入れてもらいました。せっかく3チーム入れてもらったのですから、欲張らずに「これならでき」ということを進めていけばいいのではないのでしょうか。

ただ、先程のチラシの件ですが、残念ですが半分はゴミになっているかもしれませんね……。

薊 イベントを行ったときには、子どもたちに「チラシもらった？」とか聞いたりしていましたけどね。

柏 やはり選手が直接配る、がいいですね。

池田 チラシもプリントも、学校からもらったものの一つなんですよ。でも、子どもたちが「行きたい」と言っても、連れて行くのは保護者。お母さんが行きたくなければ行けませんし、行きたいと思えば子どもは強制的に連れていかれるものです(笑)。

以前、埼玉スタジアムのフットサルコートでスクールコーチをしていたとき、木曜日の朝にやっていたが、結構来てもらっていました。毎回10人程度。それもサッカーをしたことがない人が来てくれて……そういう人たちに魅力を感じてもらおうとって、大事ですよ。

当時、70代のおばあちゃんがいらっやっています。そう、75歳から入っていただいたと記憶していますが、レッスが好きで、わざわざ浦和美園に引っ越していらっやった方でした。「レッスンから元気もらえる」って、おっやっています。そんな中で、私が監督をしているからって、尚美学園大学の試合にも来ていただきました。うれしかったですよ。

空き時間に、出産直後とか仕事ができないときに、出ていける場所ってあるといいなと思いました。私がそうでしたから。主婦でいらっやれば、子どもが学校を終えた時間帯ならば、出ていけたりしますよね。

薊 なるほどですね。時間帯、そうですね。

「めめまカップ」の街、熊谷

—そもそも、夜の試合に備えて、ホームスタジアムには照明が必要だということにされていますよね。であれば、子どもたちは昼間は自分のサッカーにがんばっているのです。そういう子どもたちに来てほしいのであれば、夜に試合をするなど工夫してほしいですね。

でも、熊谷で夜に試合だと、帰宅するのも大変ですよ……。

薊 「熊谷は遠いからなあ」と言われることは多々ありますね。

—でも、ラグビーは集まっていますよね。

薊 熊谷の皆さんにはよく来ていただいています。なんというか、「スポーツを観る」文化があるような気がしています。スポーツに関心を持っていただいているのは感じますね。

渡辺 熊谷には「めめまカップ」があります。熊谷市は、様々な形でスポーツをバックアップしていますよね。

池田 そうですね。私は運営スタッフとして関わらせていただいています。

渡辺 今はできていませんが選手は民泊したり、そうそう、みんなに豚汁をふるまったり。

薊 私もそうですが、ウチの選手の多くが「めめまカップ」の卒業生です。あの暖かさは忘れられません。今、熊谷をホームスタジアムとして活動させていただいて、クラブとして結果を出しながら地域との交流も増やして、熊谷にも根付いていけたらと思っています。

渡辺 実は今日、埼玉スタで打ち合わせしてきました。所長さんから女子サッカーの活性化についてお話をいただき「埼玉スタを提供したい」というお話をいただきました。実際、何がやれるのか。先ほど、池田さんからお話のあったママさんとかもありですね。あと先日、私は「ウォーキングサッカー」を体験しましたが、楽しかったんですよ。そういうところに選手に来ていただけるといいですね。

やはり「体験」が次につながると思います。ママ友さんたちのつながりも大事だと思っています。ターゲットとして「子ども」も大事ですが、「大人」も大事ですよ。

—ですから、ターゲットの見直しも急務だと思いますね。お母さんだけではありませんし、お父さんも大事。「家族」として、興味・関心を持っていただき、スタジアムへ足を運んでいただきたいものです。

女子サッカーを扱ったメディアを

池田 マンガがあるといいですね。女子サッカーのマンガ。ウチだと「ハイキュー!!」(集英社/バレーボールのマンガです)で、バレーボールを始めましたよ。サッカーも最近だと「アオアシ」(小学館)



池田浩美氏



渡辺典子氏

とかありますけど。女子サッカーのマンガがあるといいですね。

—えっ、実は埼玉を舞台にして女子サッカーマンガがあるんですよ。最近なのですが「さよなら私のクラマー」（講談社）というのがあります。アニメ、映画にもなりました。舞台的には、蕨高校ですね。

池田 そうなんですか！

—「BE BLUES! ～青になれ～」(小学館)が、埼玉の高校サッカーを舞台にしていますよね。そういう漫画を一堂に集めたイベントもやりたいものです。ちなみに薮さん、「赤き血のイレブン」(少年画報社)、ご存じですか？

薮 いえ……。

—なるほど……そういう時代になっているということです。歴史はつないでいかなければなりませんね。

渡辺 そういう話をお聞きして思うのは、埼玉の女子サッカーを一つの冊子にしたいということです。女性の活躍を「職業」にしていくわけです。埼玉には3つのプロクラブがあるので。冊子もそうですが、ホームページでも随時更新して、皆さんに知っていただきたいものです。JFAで発行した「サッカー×キャリア×未来～Your Life with Football～」(2020年)がありますが、そこから北海道サッカー協会から「北海道の女子サッカーを支える女性たち」(2021年)を出されたのを見たら、いいなあ。埼玉でもいろいろな立場で女子サッカーに関わっていらっしゃる方がいます。埼玉でも、そういう人たちを紹介したいものです。どうですか？

池田 ご協力させていただきますよ。

—のちほど、ご相談とさせていただきます。

では、そういう話が出ましたので、柏さん、技術委員会で制作中の「SFAフィロソフィー」(仮称)について、ご紹介いただけますか。

柏 現在、技術委員会の中で、山崎茂雄 FA コーチを中心に「SFAフィロソフィー」(仮称)を作成しています。確かに昔は高校サッカーでは強かった時期もありますが、今はどうかと。そういう中でSFAとして、技術委員会として「柱」になるものを作ろうと、今取り組んでいます。まずはトレセンの指導者に向けてではありますが、トレセンと呼ばれるプレーヤーへの要望もあります。そこから県全体に広げていきたいと考えています。



柏 悦郎氏

—まだ、女子に関しては具体的なものを提示するまでに至っていません。可能であれば、女子委員会の中で、埼玉の女の子でサッカーを始めたら、こういう道があるよという「ロードマップ」が作れるといいと思っています。

池田 意外と女子サッカーは、そのまま続けられる場があるような気がしています。ウチのチームではレギュラーでは無かった学生が、地域リーグあたりでも「仕事を斡旋できる」ということでプレーを続けています。毎年、半数近くの学生がサッカーを続けてくれています。ただ、どのカテゴリーにしても「質」は大事です。そこは学生に問いかけていますね。

「心」が動けば

柏 どうでしょう、何かSFAに要望はありませんか？

薮 ちょっと違うかもしれないのですが、チームとして結果を出すために、本当に多くの人たちがサポートしてくださっているということは、現役時代から知っていたことでもあり、感謝していました。でも引退してから、また立場が違った形でクラブに携わっていると、今までよりも多くの人たちが「こんなに多くの人たちに！」と思うくらいにサポートしていただいていることを知りました。今も、そういう場面に会おうと泣き出しそうになってしまいます。

WEリーグ自体、本当に多くの人たちが関わって成り立っています。



▲前列左から 池田浩美さん、薮理絵さん、矢島由希さん(ちふれAS エルフェン埼玉・広報)、猪田美羽さん(尚美学園大学3年生/ちふれAS エルフェン埼玉でインターン中)。後列左から SFA 広報・荒川裕治、SFA 副会長/女子委員長・渡辺典子、SFA 専務理事・柏悦郎

ですから、選手時代はもっと感謝すべきだったと反省しているところなんです。スタッフはスタッフで本当に盛り上げてくれています。私も選手たちを盛り上げられる存在になりたいと思っています。

—そういう人たちを増やしていきたいですね。様々な形でSFAとしてもお手伝いしたいと考えています。なんとなくまとめに入っていたきましたので、池田さん、お願いします。

池田 WEリーグ。夢見ていたプロリーグですよ。昔ならば、自分で探していかなければ情報のない中でやっていた女子サッカーでした。

選手はピッチの中で全力を出すこと、戦うことは当たり前のことです。今のお話から言えば、皆さんへの感謝は必要なことです。しかし、選手でできることは選手でしかできないんですね。だから気持ち。薮さんにお伝えしたいのは、今の選手たちのプレーから「心」が伝わってこないんですよ。

昨年からエルフェンに入った山本絵美さんはプロになるべくしてなった選手です。苦勞して苦勞して、ここまで来た選手です。だからスタンドから見ていて、絵美ちゃんの動き、一つひとつ見ているだけで、号泣しています。GK コーチをしている山郷(のぞみ氏/元日本女子代表)の姿もそうですし、レッズを見れば柳田(美幸氏/元日本女子代表。現、レッズレディース強化スタッフ)が歩いているだけで号泣です(笑)。そういう人たちの思いを引き継いでほしいし、プロ選手としての価値に気付いてほしいんですね。ですから、観ている人たちの「心」が動けば、自然とお客さんは増えると思います。がんばってください。

—本質を捉えたお話だと思います。ホント、「心」ですね。では、最後に渡辺さんに締めさせていただいてもよろしいですか。

渡辺 それぞれのお立場でのご意見、ありがとうございました。サッカーの魅力をいかに伝えられるかですね。私自身、サッカーをしていてすごく楽しいんです。だから見てほしいし、プレーしてほしいし、伝えてほしいと願っています。いつかJリーグのようになることを信じて、そのための歴史を作る一助になれば幸いです。今回の座談会で、また仲間が増えたと思っています。引き続き、よろしく願いいたします。

—ありがとうございました。また、こういう機会を作りたいと思います。レッズさんとも、アルディージャさんとも話をしていきたいです。これをきっかけに前に向かっていけたらと思っています。引き続き、よろしく願いいたします。

※6月25日より「コミック DAYS」にて、初の日本女子サッカーリーグのマンガである「レディース!」(能田達規氏・作画)が配信されています。ご参考まで。https://comic-days.com

成年男子、少年女子(今大会から正式種目)、本大会出場決定!

～第77回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技

8月13日から東京都において、「第77回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技」が開催されました。少年男子は残念でしたが、成年男子と少年女子は本大会である「第77回国民体育大会(いちご一会とちぎ国体)」への出場を決めました。おめでとうございます。次は本大会での入賞、優勝を期待しています。

■成年男子

【1回戦】 8月20日

埼玉県 1 (0-0)(1-1) 1 神奈川県

4PK 2
得点者 41分 中村 祐隆(アヴェントゥーラ川口)



1回戦 埼玉県 vs 神奈川県



代表決定戦 埼玉県 vs 千葉県



埼玉県成年男子

筒井剛毅監督(一問一答)

●試合前に意識していたこと

「35分ハーフなので、トータルで普段より20分少ない。ならば先制点を奪えば絶対的に有利です。立ち上がりから攻撃的に、先に点を取ろうと」

その言葉通り、埼玉は序盤からFW小林のスピードを活かしなが

ら神奈川のゴールに迫った。しかし前半は0-0で折り返す。後半6分、MF桜井の右クロスをDF中村がヘッドで豪快に合わせて埼玉が先制。そのまま逃げ切りかけたが後半終了間際にDF福田が痛恨のPKを献上。これをきっちり決められ、PK戦へ突入した。

●土壇場で追いつかれてしまったが…

「ふだんからよく話すのですが、失点はミスや事故でも起こりうることで、2点を取るチームをつくらうと。プラン的には思い描いた通りにいったんですけど…やっぱり2点目ですね」

●PK戦に備え、好プレーでチームを支えたGK新海に代えて本山を投入したが。

「新海は安定した守備で貢献してくれましたが、PK戦は本山で備えていました。その本山が2本目、4本目を止めてくれて(笑)。嬉しかったですね」

●チームの雰囲気がとても良く見えますが。

「皆明るく、ベテランと若手がよくまとまっていますね。SAITAMAのユニフォームを着て、モチベーションも上がっています」

●明日の決定戦(千葉)に向けて。

「サッカー王国埼玉、って今はそう呼ばれていないんですか?であれば、ここは何としても本大会(全国大会)に出場したい。セットプレーの精度など、今日の反省点を修正して次に挑みます」

【代表決定戦】 8月21日

埼玉県 1 (0-0)(1-1) 1 千葉県

5PK 3
得点者 70+5分 須崎 光将(アヴェントゥーラ川口)

千葉は関東リーグ1部(VONDS市原、プリオベッカ浦安)に所属する選手を中心に、立ち上がりから細かなパスワークと緩急をつけた攻撃で埼玉ゴールを狙う。

前半14分、千葉は右CKから先制。埼玉はマイボールをFW小林に預ける形をつくれず苦戦。後半も10本のシュートを打たれるなど千葉に主導権を握られた。相手シュートミスにも助けられスコアは動かず。しかし、後半AT5分、埼玉はFKのこぼれ球を交代出場の須崎が左足で蹴り込んで同点に追いつく。

その直後にタイムアップとなり、PK戦では昨日に続いてGK本山を投入。その本山が相手4本目を足で止め、5人全員が成功した埼玉が劇的な勝利を奪った。

●劇的な展開になりました。

「監督をやっている、年に一度あるかないか、というくらい劇的な試合でしたね」

●苦しい展開が続いていましたが。

「なんとか流れを変えたかったので、後半は5枚の交代カードをすべて切りました。GK新海を含めて粘り強く対応してくれたので、このような結果を呼び込めたと思います」

●GK本山選手を投入した直後の同点弾、決めたのも交代で入った須崎選手でした。そして本山選手は連日のPK戦勝利の立役者に…監督の采配が見事に決まりましたね。

「いや、これはチーム一丸の勝利です。先発で粘ってくれた選手、起用に応えてくれた選手、ベンチ、スタッフ、そして応援していただいた観客・サポーターの皆さま、すべての力が結実したのだと思います」

●本大会出場を決めたが。

「ありがとうございます。SAITAMAを背負うプレッシャーもありますが、誇りを感じています。サッカー王国・埼玉を復活させられるよう、頑張ります!!」

アヴェントゥーラ川口として昨年の天皇杯に出場。そして、今回は自チーム主体の埼玉県選抜を率いて9年ぶりの国体出場を決めた。試合後、興奮冷めやらぬ筒井監督だったが、ズバリ的中の采配を脇に置いて、チーム一丸の勝利を讃えていた。

■少年男子

【2022年度 関東トレセンリーグ U-16】

● A ブロック

第1節 千葉県 5-3 埼玉県

得点者 45分 照内利和 (浦和レッズユース) 49分 中村圭汰 (三菱養和 SC ユース)
71分 鈴木 翔 (昌平高校)

第2節 埼玉県 3-0 山梨県

得点者 3分 会田光希 (浦和レッズユース) 9分、47分 熊谷陽人 (浦和レッズユース)

第3節 埼玉県 5-0 栃木県

得点者 1分、27分 山口太陽 (FC東京 U-18) 4分 松坂芽生 (浦和レッズユース)
81分 中村圭汰 (三菱養和 SC ユース) 87分 照内利和 (浦和レッズユース)

埼玉県は A ブロック 2位

【代表決定戦】 8月14日

神奈川県 1 (0-1)(1-0) 1 埼玉県

4PK 3
得点者 31分 会田光希 (浦和レッズユース)

「関東トレセンリーグ」Aブロック2位の埼玉県と、Bブロック2位の神奈川県で一発勝負の代表決定戦となった。埼玉県は前半31分に先制したものの、後半8分に同点とされると、1対1のまま、PK戦に突入。残念ながら、最後の最後で力尽きてしまった。



代表決定戦 埼玉県 vs 神奈川県



埼玉県少年男子

大森健司監督

「相手の神奈川には、U-16日本代表候補が6人。こちらとしては、受け身、守備的にならずに戦うことを意識して臨みました。

その根拠として、神奈川は代表6人全員が初めて合流したチームなので、組織力はこちらの方が上と分析していたからです。しかしながら、タレント性は相手のほうが上。ですからノーガードの打ち合いにはしない。可能な限り高いラインで守備を維持して、ボールを奪ってこうと考えました。

とはいえ、スタートからボールを握られてしまいました。特にキックオフ直後にこちらの右サイドに大きく蹴りこんできました。繋ぐよりも蹴るという意識が強かったように感じます。そこから最初の10分は厳しい時間帯でした。失点するのも時間の問題かと思いましたが、なんとかチームとしてのしぐことができ、15分過ぎからチームとしてのリズムが出てきて、31分に先制することができました。

ハーフタイムには「2点目取るよ」と選手たちを促しました。試合の中で決着をつけたかったですね。

ただ後半は、CKが多かったですね。神奈川には180cm以上の選手が多く、その高さによられたわけではありませんが、失点はCKからでした。

PK戦で負けてはしまいましたが、本当に神奈川を追い込むことができました。またいろいろな意味でしびれる試合ができたと思います。だから、なおさら悔しい。チームとしては、新型コロナウイルスの影響もあり、3月スタートが1ヵ月遅れるなど不運なこともありましたが、それでも成熟させることはできましたし、この後の本大会でさらに、という思いもあっただけに残念です。

レッズから福永さん(泰氏)に入ってもらい、推挙されたスタッフとも信頼関係を築くことができ、違和感なくチームづくりを進めることができました。ありがとうございました。

9月25日、「関東トレセンリーグ」の最終節、順位決定戦があり、また同じ神奈川県と対戦することになっています(SFAフットボールセンター)。今度こそはしっかり勝ちたいと思っています」

■少年女子

【2022年度 関東トレセンリーグ女子 U-16】

● A グループ

第1節 埼玉県 2-0 栃木県

得点者 35分、90+4分 前原嘉乃 (三菱重工浦和レッズレディースユース)

第2節 茨城県 0-6 埼玉県

得点者 2分、26分、87分 辻あみる (三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース)
41分、85分、90分 茂木未宙 (大宮アルディージャ VENTUS U15)

第3節 神奈川県 3-3 埼玉県

得点者 69分 伊藤愛唯 (ちふれ AS エルフェン埼玉マリ U18)
73分 茂木未宙 (大宮アルディージャ VENTUS U15)
90+5分 石井瑞穂 (山村学園)

埼玉県は A グループ 2位

【代表決定戦】 8月21日

埼玉県 3 (1-0)(2-0) 1 群馬県

得点者 13分 澤野 翔夏 (三菱重工浦和レッズレディースユース)
43分 茂木未宙 (大宮アルディージャ VENTUS U15)
70+2分 小島 爽 (INAC 白岡 SCL)

今大会から正式種目となった「少年女子」。予選扱いとして開催されていた「関東トレセンリーグ女子 U-16」(第1節~第3節。順位決定戦は2/26)において、埼玉県選抜は A グループを戦い、2勝1分で2位となった。結果、Bグループで2位となった群馬県と一発勝負で代表権を争うことになった。

結果的には3対0とほぼ完勝で、本大会進出を決めた。本大会では、記念すべき初代女王を目指す。



代表決定戦 埼玉県 vs 群馬県



埼玉県少年女子

堀 達也監督

「コロナ禍にあって、メンバーの入れ替えも懸念されましたが、予定していた15人が集まってくれました。ただ全員が全員、100%の状態ではありませんでした。それでも、1名も欠けることなく顔を合わせられたことで、試合に向けて選手たちの精神状態は安定していたのではないのでしょうか。

試合としては、思ったよりも早く先制点が入りました。実際、相手はかなり引いて守っていたので「これだと時間はかかるかな」と思いながらも、チャンスは作っていましたから安心して見ていました。得点シーンは、自分たちで作ったスペースに左サイドバックの澤野が入り込んでのシュートと、狙った形でした。この先制点でチームとしても乗ってくれたと思います。そのまま前半は圧倒し、後半もシステム

的に相手と対面でしっかりかみ合うように変更して臨んだところ、埼玉の選手たちは1対1の強さを発揮し、一人ひとりの能力の高さを示すことができました。

ただ、前日の雨で芝がスリッピーになっていたことから、ラストパスが伸びてしまうなど対応に時間がかかったことと、後半の20分過ぎにPKを得たものの、これを外したことで一時的ですが、相手の息を吹き返させてしまったことが課題となりました。それでも、GK中心にしっかり守ってくれました。ご声援いただき、ありがとうございました。

本大会に向けて、さらにコミュニケーションを深めて準備し、いい結果、最終日まで戦いたいと思っています。よろしくお願ひいたします」

第77回国民体育大会 関東ブロック大会 埼玉県代表チーム名簿

■成年男子			■少年男子			■少年女子					
役職	氏名	所属	役職	氏名	所属	役職	氏名	所属			
監督	筒井 剛毅	アヴェントゥーラ川口	監督	大森 健司	県立草加高校	監督	堀 達也	県立大宮武蔵野高校			
コーチ	柱谷 幸一	アヴェントゥーラ川口	ヘッドコーチ	福永 泰	浦和レッドダイヤモンズ	コーチ	葉袋 広明	クーバーコーチング			
コーチ	長岡 修	アヴェントゥーラ川口	コーチ	野木 悟志	県立庄和高校	トレーナー	圓山 和也	入間テクニカル接骨院			
GKコーチ	野口 桂祐	アヴェントゥーラ川口	GKコーチ	安田 光貴	朝霞市立第一中学校	総務	長谷川 暁雄	県立久喜高校			
トレーナー	吉田 研	アヴェントゥーラ川口	トレーナー	加藤 一夫	西大宮病院						
トレーナー	大竹 洸太	アヴェントゥーラ川口	主務	谷内 謙介	県立八潮南高校						
No.	位置	氏名	所属	No.	位置	氏名	所属	No.	位置	氏名	所属
2	DF	大野 慶彦	アヴェントゥーラ川口	1	GK	吉澤 匠真	浦和レッドダイヤモンズユース	1	GK	井野 杏莉	ちふれASエルフェン埼玉マリU18
3	DF	福田 俊介	アヴェントゥーラ川口	2	DF	中村 紘太	浦和レッドダイヤモンズユース	2	DF	青田 望々	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
4	DF	小羽根公貴	アヴェントゥーラ川口	3	MF	鈴木 宏幸	昌平高等学校	3	MF	秋本 佳音	三菱重工浦和レッズレディースユース
5	MF	須崎 光将	アヴェントゥーラ川口	4	MF	瀨山 航生	浦和レッドダイヤモンズユース	6	DF	小磯 遙香	川口市立高等学校
6	DF	大久保龍成	アヴェントゥーラ川口	5	MF	松坂 芽生	浦和レッドダイヤモンズユース	7	MF	菅原 夏希	ちふれASエルフェン埼玉マリU18
7	MF	吉田 翔太	アヴェントゥーラ川口	6	DF	小野寺拓巳	浦和レッドダイヤモンズユース	8	DF	澤野 翔夏	三菱重工浦和レッズレディースユース
8	MF	巒田 登	アヴェントゥーラ川口	7	FW	会田 光希	浦和レッドダイヤモンズユース	9	FW	前原 嘉乃	三菱重工浦和レッズレディースユース
9	MF	横山優太郎	アヴェントゥーラ川口	8	MF	丹野 豊芽	大宮アルディージャU18	10	MF	高橋 光莉	三菱重工浦和レッズレディースユース
10	FW	小林 秀征	アヴェントゥーラ川口	9	FW	山口 太陽	FC 東京 U-18	13	MF	市川 心晴	入間向陽高等学校
11	MF	桜井 潤人	アヴェントゥーラ川口	10	FW	照内 利和	浦和レッドダイヤモンズユース	17	MF	熊田 姫依	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
12	GK	本山 航大	アヴェントゥーラ川口	11	FW	中村 圭汰	三菱養和 SC ユース	18	DF	伊藤 璃音	INAC 白岡 SCL
14	DF	白倉 雄生	共栄大学	12	GK	小森 春輝	浦和レッドダイヤモンズユース	19	FW	辻 あみる	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
15	DF	中村 祐隆	アヴェントゥーラ川口	13	DF	鈴木 翔	昌平高等学校	20	FW	小島 爽	INAC 白岡 SCL
16	DF	土釜 走太	アヴェントゥーラ川口	14	MF	菊浪 涼生	大宮アルディージャU18	21	FW	茂木 未宙	大宮アルディージャ VENTUS U15
18	MF	塩野 稜太	アヴェントゥーラ川口	15	MF	三浦 悠代	昌平高等学校	24	DF	伊藤 愛唯	ちふれASエルフェン埼玉マリU18
21	GK	新海 隼	アヴェントゥーラ川口	16	MF	粕谷 晴輝	東京ヴェルディユース				

技術委員会、独自のWEBサイト& SNSを開始!

8月8日、SFA公式ウェブサイトでも発表しましたが、技術委員会が独自にWEBサイトを開設しました。

<https://sfa-tec.jimdofree.com/>

これにより、技術委員会の事業である指導者養成、トレセンなどの活動がよりよく理解され、かつ委員会そのものが活性化されることが期待されています。

県民の皆さんとの距離を縮めるのは「ブログ」でしょうか。今年からFAコーチに就任した山崎茂雄さんが県内外での活動を紹介してくれています。

また、指導者養成インストラクターの紹介やトレセンスタッフの一覧なども掲載しています。来年度にはそれぞれ顔写真やプロフィールを紹介するなどして、より近い関係を築けるよう配慮していく所存です。

さらに今後は、画像・映像なども含めたアーカイブスのページを作成し、歴史を振り返りつつも、埼玉の未来を意識できるようなコンテンツも用意する予定です。

ちなみに、このWEBサイトはあくまでも暫定です。というのは、現状のSFA公式ウェブサイトでは、更新が煩雑なため、フレキシブルな情報提供ができないためです。できるだけ早く、本来の公式ウ

ェブサイト上への引越しをし、各委員会との連動や種別との連携を進め、埼玉サッカーの発展に寄与したいと考えています。

そして、SFA初となるSNSを始めました。種別連盟では始めている組織もありますが、SFA内部の組織としては初の試みです。取り急ぎとして、FacebookとLINEからスタートしました。

基本的にはWEBサイトの更新のお知らせが中心になっていますが、今後は皆さんとのつながりを深めるためにも、レッズ、アルディージャ、エルフェンなど県内チームとの連携、リアルタイムでの活動紹介なども展開したいと考えています。まだまだ拙い体制ではありますが、しっかりと信頼を得ていきたいと考えています。ご意見がございましたら、技術委員会のWEBサイトの「お問い合わせ」からご連絡ください。

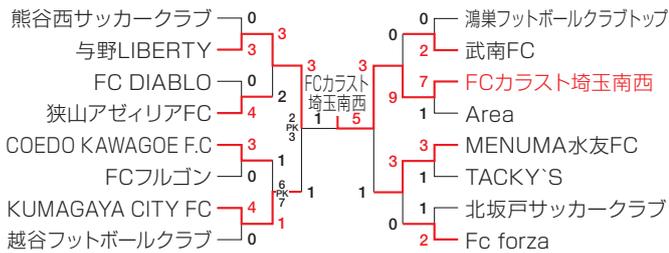
最後になりますが、一つ告知です。ぜひ、山崎茂雄FAコーチを皆さんのチーム(SFA登録チームに限ります)の臨時コーチとして招いてみませんか。日程調整は必要ですが、ぜひご相談ください。こちらから技術委員会のWEBサイトの「お問い合わせ」からご連絡ください。登録チーム名(種別含む)、活動場所、練習日、代表者の氏名と連絡先などを添えて、希望日をお送りください。折り返し、ご連絡を差し上げます。よろしくお願ひいたします。

大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

第29回全国クラブチームサッカー選手権埼玉県大会

6月5日～8月14日 埼玉スタジアム第4グラウンド他

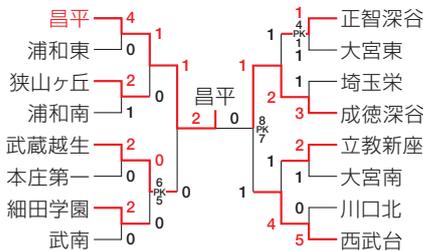


※優勝したFCカラスト埼玉南西は初優勝、関東大会に出場。

2種・高体連

令和3年度学校総合体育大会 兼 全国高校総体サッカー大会 埼玉県予選

6月6日～23日 県内各地



※優勝した昌平高校は3大会ぶり4回目。本大会に出場。



優勝 昌平

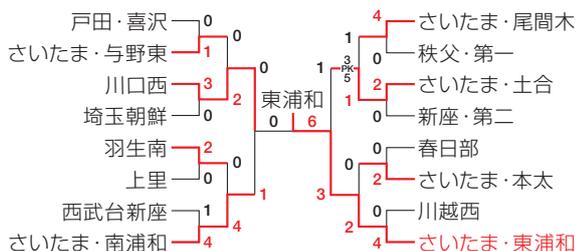


決勝 昌平 vs 成徳深谷

3種・中体連

令和4年度学校総合体育大会 埼玉県大会

7月16日～28日 県内各地



※優勝したさいたま市立東浦和中学校と準優勝のさいたま市立南浦和中学校は、関東大会に出場。

3種・クラブ

第37回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 埼玉県予選

4月16日～5月7日 県内各地

●代表決定トーナメント

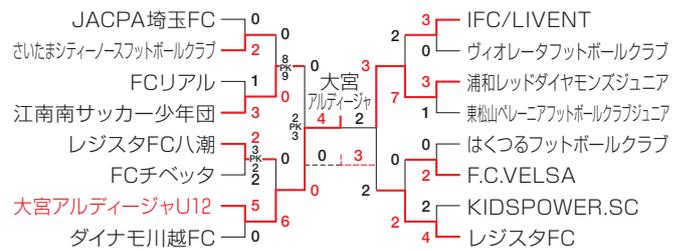
第1代表	成立ゼブラ	2-0	草加ジュニア
第2代表	1FC川越水上公園	1-1 (1PK3)	大宮FC
第3代表	三郷ジュニア	4-0	アビリスタ
第4代表	ACアスミ	10-0	エステレーラ
第5代表	ASAS	1-6	坂戸ディプロ
第6代表	クマガヤSC	2-0	CAアレグレ
第7代表	HAN	0-2	ペレーニア

※7チームと関東リーグ出場するチームが関東大会に出場

4種

第46回関東U-12サッカー大会 埼玉県大会

6月19日、26日 埼玉スタジアム第2グラウンド他



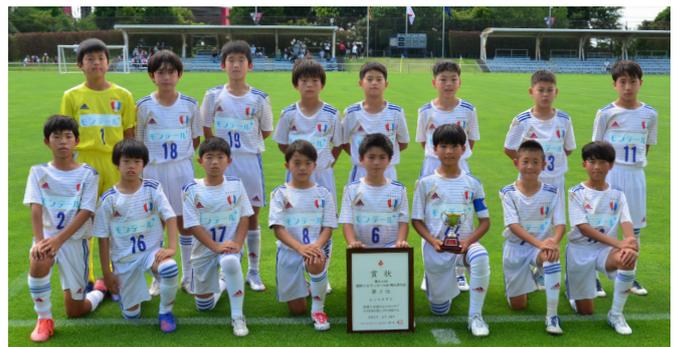
※優勝は大宮アルディージャU12。上位3チームが関東大会に出場。



優勝 大宮アルディージャU12



準優勝 浦和レッドダイヤモンズジュニア



3位 レジスタFC



決勝 大宮アルディージャU12 vs 浦和レッドダイヤモンズジュニア



3位決定戦 レジスタFC vs 江南南サッカー少年団

女子

第44回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会埼玉県予選 兼 第42回埼玉県女子サッカー大会

6月26日～7月24日 埼玉スタジアム第2他

尚美学園大学女子サッカー部	0	0	川越南高校
松山女子高校サッカー部	0	1	南桜高校女子サッカー部
三菱重工浦和レディスユース	5	3	ちふれASエルフェンマリU-18
INAC白岡SCLレディース	1	2	FC Angels
武蔵丘短期大学シエンシア	7	2	花咲徳栄高校
DBFC楓昂	0	0	昌平高等学校

※優勝した武蔵丘短期大学シエンシアは関東大会地区予選に出場。



2回戦 ちふれASエルフェンマリ vs 川越南高校

大会記録 ● 県外大会

1種

天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会

5月21日	みやぎ生協めぐみ野サッカー場A	1回戦	ソニー仙台FC	3-1	東京国際大学FC
6月1日	タピック県総ひやごんスタジアム/浦和駒場スタジアム	2回戦	FC琉球	1-4	大宮アルディージャ
			浦和レッズ	1-0	福島ユナイテッドFC
6月22日	NACK5スタジアム/正田醤油スタジアム群馬	3回戦	鹿島アントラーズ	3-0	大宮アルディージャ
			浦和レッズ	0-1	ザスパクサツ群馬

社会人

第58回(2022年度)全国社会人サッカー選手権大会関東予選

6月5日～19日	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場	1回戦	FC.JOBU(群馬)	1-8	Tokyo International University
			さいたまSC	1-1	TOKYO UNITED FC +Plus
				(4PK3)	
2回戦	VONDS市原FC	4-3	東京国際大学ドリームス		
	アヴェントゥーラ川口	1-6	桐蔭横浜大学FC		
	東京国際大学FC	0-1	南葛SC		
	流通経済大学ドラゴンズ龍ヶ崎	3-0	Tokyo International University		
	ジョイフル本田つくばFC	5-4	さいたまSC		

大学

「アミノバイタル®」カップ2022 第11回関東大学サッカートーナメント大会プレーオフ

6月18日	平成国際大学	1-1	常盤大学
		(3PK1)	
	埼玉工業大学	1-2	上武大学
	国際武道大学	2-0	共栄大学

※埼玉県からは平成国際大学が出場。

「アミノバイタル®」カップ2022 第11回関東大学サッカートーナメント大会

7月9日～24日	味の素フィールド西が丘	1回戦	城西大学	1-2	早稲田大学
			桐蔭横浜大学	2-0	平成国際大学
			東京国際大学	3-0	上武大学
2回戦	東京国際大学	vs	順天堂大学		

※東京国際大学の不戦敗。優勝は国士舘大学。上位7チームが「2022年度第46回総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント」に出場。

2種・高体連

令和4年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

7月24日～30日	鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム他	1回戦	昌平	3-0	生駒(奈良県)
		2回戦	昌平	3-1	星稜(石川県)
		3回戦	日章学園(宮崎県)	2-6	昌平
		準々決勝	大津(熊本県)	0-1	昌平
		準決勝	帝京	1-0	昌平

※優勝は前橋育英(群馬県)。

クラブ

第46回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

7月24日～8月3日	正田醤油スタジアム群馬他	●グループリーグ	
Cグループ	ヴィッセル神戸	0-1	浦和レッズ
	サンフレッチェ広島	1-4	浦和レッズ
	東京ヴェルディ	3-1	浦和レッズ

※浦和レッズはグループ1位でノックアウトステージへ進出。

Dグループ	大宮アルディージャ	0-2	レノファ山口FC
	大宮アルディージャ	1-0	アルビレックス新潟
	大宮アルディージャ	2-1	京都サンガF.C.

※大宮アルディージャはグループ2位でノックアウトステージへ進出。

●ノックアウトステージ

ラウンド16	浦和レッズ	2-0	清水エスパルス
	柏レイソル	2-1	大宮アルディージャ

準々決勝 浦和レッズ 0-1 横浜F・マリノス

※優勝はセレッソ大阪。

令和4年度全国高等学校定時制通信制体育大会 第32回サッカー大会

1回戦 日夕輝学園(埼玉2) 0-1 西宮香風(兵庫2)
吹上秋桜(埼玉1) 2-3 貞山(宮城)

※優勝は播磨工業(兵庫1)。

3種・中体連

第53回 関東中学校サッカー大会

8月7日~9日 山梨県内

1回戦 高根沢町立阿久津中学校 1-5 さいたま市立南浦和中学校
さいたま市立東浦和中学校 3-0 栃木市立東陽中学校

準々決勝 市川市立第三中学校 1-3 さいたま市立南浦和中学校
さいたま市立東浦和中学校 3-5 駒場東邦中学校

準決勝 さいたま市立南浦和中学校 1-3 修徳中学校

順位決定戦 藤沢市立鶴沼中学校 3-0 さいたま市立東浦和中学校
市川市立第三中学校 0-2 さいたま市立東浦和中学校

※優勝は修徳中学校。上位7チームが本大会に出場。

令和4年度全国中学校体育大会第53回全国中学校サッカー大会

8月17日~22日 鶴岡市小真木原陸上競技場他

1回戦 神村学園中等部 5-0 さいたま市立東浦和中学校
高川学園中学校 2-2 さいたま市立南浦和中学校
(2PK4)

2回戦 浜松開誠館中学校 4-0 さいたま市立南浦和中学校

※優勝は浜松開誠館中学校(静岡県)。

クラブ

第28回関東クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 兼

第37回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

6月4日~7月10日 河口湖サッカー場他

1回戦 湘南ベルマーレEAST 1-1 東松山ペレーニアSC
(4PK5)
FCラルクヴェール千葉 1-0 三郷ジュニアユースFC

ACアサミ 4-0 ヴェルディSS小山

坂戸ディプロマツ 1-0 FC府中

クマガヤSC 0-1 プリオベッカ浦安

2回戦 横浜FC 3-2 東松山ペレーニアSC

FC LAVIDA 2-0 FCラルクヴェール千葉

横須賀シーガルズ 0-4 クラブ与野

FC東京U-15 1-0 ACアサミ

坂戸ディプロマツ 0-3 浦和レッズジュニアユース

PALAISTRA 1-2 成立ゼブラ

ACカクラテル 3-2 大宮アルディージャU15

GRANDE FC 0-1 シュートJrユースFC

ヴァンフォーレ甲府U-15 5-1 大宮FC

3回戦 FC LAVIDA 0-1 クラブ与野

柏レイソルA.A.TOR82 1-2 浦和レッズジュニアユース

プリオベッカ浦安 4-3 成立ゼブラ

4回戦 クラブ与野 0-1 FC東京U-15むさし

Wings U-15 3-2 浦和レッズジュニアユース

代表決定戦 鹿島アントラーズFC 2-4 クラブ与野

湘南ベルマーレ 1-1 浦和レッズジュニアユース
(2PK4)

※優勝はジェフユナイテッド市原・千葉U-15。上位15位までが本大会に出場。

第37回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

8月15日~24日 幕別町運動公園陸上競技場他

●グループステージ

Dグループ 浦和レッズ 6-0 インテルナシオナル(兵庫県)

浦和レッズ 1-5 長野バルセイロ

ファジャアノ岡山 1-1 浦和レッズ

※浦和レッズはグループ3位でノックアウトステージに進出

Jグループ コンサドーレ札幌 1-1 クラブ与野

フレスカ神戸 1-2 クラブ与野

クラブ与野 1-1 ツエーゲン金沢

※クラブ与野はグループ1位でノックアウトステージに進出

●ノックアウトステージ

ラウンド32 サガン鳥栖 4-2 浦和レッズ

クラブ与野 1-0 鹿島アントラーズ

ラウンド16 FC東京むさし 0-1 クラブ与野

準々決勝 サガン鳥栖 5-1 クラブ与野

※優勝はセレッソ大阪。

シニア

JFA 第21回全日本O-50サッカー大会

6月25日~27日 市原スポレクパーク

●1次ラウンド

グループD FC浦和シニア 0-3 福岡とびうめシニアサッカークラブ

羅針盤倶楽部NAGOYA 4-0 FC浦和シニア

松江FCだんだん 0-4 FC浦和シニア

※FC浦和シニアはグループ3位。優勝はT・ドリームス50(東京都)。

フットサル

JFA 第18回全日本大学フットサル選手権大会関東大会

6月26日 日環アリーナ栃木サブアリーナ

1回戦 桐蔭横浜大学フットサル部 0-2 東京国際大学サッカー部

準決勝 東京大学総務委員会連轄部フットサル部さばち先生 0-3 東京国際大学サッカー部

決勝 多摩大学体育会フットサル部 3-5 東京国際大学サッカー部

※優勝は東京国際大学サッカー部。上位3チームが本大会に出場。

JFA 第9回全日本U-18フットサル選手権大会関東大会

7月2日~17日 駒場屋内競技場

●予選リーグ

Bブロック 駿台甲府高校 5-5 FFCエストレーラ川口

FFCエストレーラ川口 2-4 湘南ベルマーレFCコンドリーナU-18

※FFCエストレーラ川口はグループ2位。優勝はASVペスカドーラ町田U18。上位3チームが本大会に出場。

JFA バーモントカップ第32回全日本U-12フットサル選手権大会

8月5日~7日 駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館センター他

●グループステージ

Jグループ 江城南サッカー少年団 2-3 マリオフットサルスクール(静岡県)

鳥取KFC U-12 1-9 江城南サッカー少年団

YSCオーレ 2-8 江城南サッカー少年団

※江城南サッカー少年団は2位でノックアウトステージへ進出。

●ノックアウトステージ

ラウンド16 アズーロ和歌山 4-5 江城南サッカー少年団

準々決勝 マルバ千葉fc 1-3 江城南サッカー少年団

準決勝 ヴィッセル神戸U-12 4-1 江城南サッカー少年団

※優勝はプリンカールFC(愛知県)。

ビーチサッカー

JFA 第17回 全日本ビーチサッカー大会関東大会

7月2日、3日 鹿嶋市

1回戦 If Levante FC 0-19 東京レキオスBS

※優勝は東京レキオスBS。上位3チームは本大会に出場。

仕事柄、埼玉県内の試合は中立な立場を心がけて取材していますが、しかし県外大会となれば、埼玉県代表チームを心置きなく応援しながらの取材！ もちろん無表情を貫いてはおりませんが…(笑)。今号でお伝えした通り、国体関東ブロック大会・成年男子チームは2戦連続のPK戦勝利を収め、見事に本大会出場を決めてくれました。一発勝負は本当に何が起るかわからないものですが、間近で感じたベンチの熱量が総力戦の勝利を呼び込んだと思います。そして筒井監督から「サッカー王国埼玉」の言葉も。徐々に聞くフレーズに胸が熱くなり、本大会での活躍を期待せずにはいられなくなりました。

「とちぎ国体」のあと、各カテゴリーの大会やリーグ戦が大詰めを迎えます。次号以降は大会結果をお届けしながら、特集記事を組んで参ります。引き続きご愛読ください。(藤田)

